

# 株式会社 PLANT

第45期 2026年9月期 第2四半期(中間期) 決算概要

2026年4月28日



- 物価高による消費者の節約志向の高まりなど引き続き事業環境は厳しく、また暖冬の影響により季節商品などの販売が伸び悩み減収・減益となった
- 第1四半期単独の粗利益率は前年同期比0.21P低下したが、第2四半期単独では惣菜をはじめとする付加価値商品の販売強化などにより同0.50Pの改善に転じた
- 販売管理費は老朽設備に関する修繕費が増加したが、生産性の向上施策(例：セルフレジ増台など)により労働時間の抑制は順調に推移。更にコストコントロールを徹底し、前期同水準に留めた
- 中東情勢の影響により各種コストの増加が見込まれ、同影響によるガソリンスタンドの売上および粗利益への影響も見込まれることから通期業績予想を修正

# 損益状況

(単位：百万円)	2025年9月期 中間期	2026年9月期 中間期	前期比増減額 (増減率)	2026年9月期 中間期業績予想	達成率
売上高	48,265	<b>47,555</b>	▲710 (▲1.5%)	48,500	98.1%
売上総利益	10,945	<b>10,857</b>	▲87 (▲0.8%)	—	—
売上総利益率	22.68%	<b>22.83%</b>	+0.15P	—	—
販売費及び 一般管理費	9,965	<b>9,966</b>	+0 (+0.0%)	—	—
営業利益	979	<b>891</b>	▲88 (▲9.0%)	1,050	84.9%
営業利益率	2.03%	<b>1.87%</b>	▲0.16P	2.16%	—
EBITDA (営業利益+減価償却費)	1,620	<b>1,562</b>	▲58 (▲3.6%)	—	—
経常利益	1,056	<b>949</b>	▲107 (▲10.2%)	1,100	86.3%
中間純利益	751	<b>657</b>	▲94 (▲12.5%)	760	86.5%

(単位：百万円)	2025年9月期 中間期	2026年9月期 中間期	前期比増減額 (増減率)
フーズ	32,007	<b>31,854</b>	▲152 (▲0.5%)
雑貨	11,512	<b>11,303</b>	▲209 (▲1.8%)
フーズ・雑貨合計	43,520	<b>43,158</b>	▲361 (▲0.8%)
ガソリン・灯油	4,542	<b>4,194</b>	▲348 (▲7.7%)
不動産賃貸料収入	202	<b>202</b>	▲0 (▲0.2%)
合計	48,265	<b>47,555</b>	▲710 (▲1.5%)

## ポイント

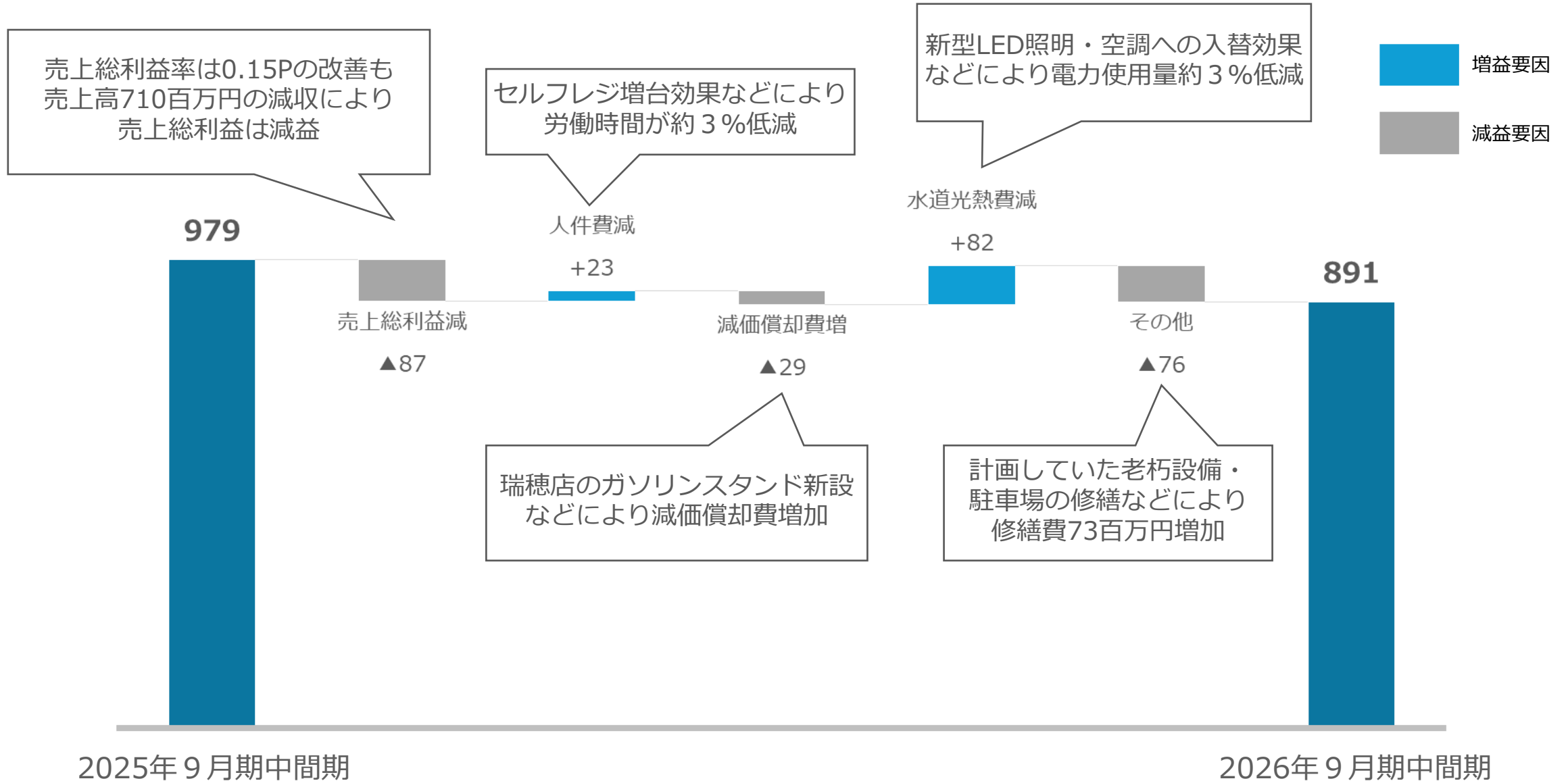
- フーズは武器としている惣菜・ベーカリーは売上伸長する一方、青果の相場軟調による単価低下の影響を受け、フーズ合計では前年割れ
- 雑貨は暖冬の影響により季節商品の売上が伸び悩む
- 2025年12月の瑞穂店（岐阜県）ガソリンスタンド新設が寄与したが、暫定税率廃止に伴うガソリン単価の低下により、ガソリン・灯油合計の売上高は減少

(単位：百万円)	2025年9月期 中間期	2026年9月期 中間期	前期比増減額 (増減率)
人件費	6,113	6,089	▲23 (▲0.4%)
減価償却費	640	670	+29 (+4.6%)
水道光熱費	788	705	▲82 (▲10.5%)
その他	2,423	2,500	+76 (3.2%)
合計	9,965	9,966	+0 (+0.0%)

## ポイント

- セルフレジ増台効果などにより労働時間が約3%低減
- 瑞穂店のガソリンスタンド新設などにより減価償却費増加
- 新型LED照明・空調への入替効果などにより電力使用量約3%低減
- 計画していた老朽設備・駐車場の修繕などにより修繕費73百万円増加

# 営業利益増減要因



2025年9月期中間期

2026年9月期中間期

(単位：百万円)

# 四半期別損益状況

(単位：百万円)	第1四半期			第2四半期		
	2025年 9月期	2026年 9月期	前年 同期差	2025年 9月期	2026年 9月期	前年 同期差
<b>売上高</b>	23,559	23,277	▲281	24,706	24,277	▲428
<b>売上総利益</b>	5,330	5,217	▲112	5,615	5,639	+24
<b>売上総利益率</b>	22.63%	22.42%	▲0.21P	22.73%	23.23%	+0.50P
<b>販管費</b>	4,894	4,928	+33	5,070	5,037	▲33
人件費	2,974	2,967	▲7	3,138	3,122	▲16
販売費	915	876	▲38	938	883	▲54
うち水道光熱費	388	348	▲39	399	356	▲42
管理費	1,004	1,084	+79	993	1,031	+37
<b>営業利益</b>	435	289	▲146	544	602	+57
<b>営業利益率</b>	1.85%	1.24%	▲0.61P	2.20%	2.48%	+0.28P
<b>EBITDA</b> (営業利益+減価償却費)	749	622	▲127	870	939	+68

(単位：百万円)	2025年9月期末	2026年9月期 中間期末	増減
<b>流動資産合計</b>	<b>15,800</b>	<b>14,722</b>	<b>▲1,078</b>
うち 現金及び預金	3,699	2,125	▲1,573
うち 商品	8,774	9,255	+481
<b>固定資産合計</b>	<b>21,208</b>	<b>21,082</b>	<b>▲126</b>
<b>資産合計</b>	<b>37,009</b>	<b>35,804</b>	<b>▲1,204</b>
流動負債	11,620	10,304	▲1,315
固定負債	10,067	9,809	▲257
<b>負債合計</b>	<b>21,688</b>	<b>20,114</b>	<b>▲1,573</b>
うち 有利子負債 (長期借入金・リース債務)	6,191	5,921	▲269
<b>純資産合計</b>	<b>15,321</b>	<b>15,690</b>	<b>+369</b>
うち 自己株式	▲1,301	▲1,301	—
<b>負債純資産合計</b>	<b>37,009</b>	<b>35,804</b>	<b>▲1,204</b>
<b>自己資本比率</b>	<b>41.4%</b>	<b>43.8%</b>	<b>+2.4P</b>

## 増減要因・ポイント

- 現預金減少：下記要因による商品増加に加え、2025年12月新設の瑞穂店ガソリンスタンドなどの固定資産の取得が影響
- 商品増加：春の新生活需要への対応、および中間期末の3月20日は3連休の初日であり連休需要に対応するため一時的に増加
- 流動負債減少：例年3月度は営業日数が少ない(2月21日～3月20日の28日間)ことにより、中間期末の買掛金が前期末と比べ減少する傾向にある

## 【修正の理由】

当第2四半期累計期間につきましては販管費は概ね計画どおりに推移したものの、暖冬の影響により季節商品などの販売が想定を下回り、減収・減益となりました。

下期につきましては、中東情勢の影響によるエネルギー市況の変化によりガソリンの販売環境が厳しさを増しておりガソリンスタンドの売上および売上総利益への影響を見込んでおります。さらに、同影響に伴う各種コストの増加も見込まれることから2025年10月24日に公表いたしました通期業績予想を修正いたします。

なお、本業績予想の修正に伴う期末配当予想につきましては、2025年10月24日に公表いたしました55円から変更はありません。

(単位：百万円)	2025年9月期通期実績	2026年9月期通期 前回公表予想 (2025年10月24日公表)	2026年9月期通期 今回修正予想	前期実績からの 増減額(増減率)	通期予想の 増減額(増減率)
売上高	97,764	99,000	95,500	▲2,264 (▲2.3%)	▲3,500 (▲3.5%)
営業利益	2,006	2,200	1,500	▲506 (▲25.2%)	▲700 (▲31.8%)
経常利益	2,131	2,300	1,600	▲531 (▲24.9%)	▲700 (▲30.4%)
当期純利益	1,345	1,530	1,100	▲245 (▲18.3%)	▲430 (▲28.1%)



本資料は、投資家の皆様に当社についての理解を深めていただくことを目的として作られたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料中の業績予想等に関する記述につきましては、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績は、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

実際の業績等は、経営環境の変動、不可抗力等によって大きく異なる可能性がありますのでご注意ください。